

研究推進だより NO. 1

令和3年 5月31日
大田区立 出雲小学校
校長 関 眞理子
研究主任 岩崎 光子

令和3年度校内研究主題 未来を創る力の育成 ～「未来ものづくり」を通して～

5月17日(月)第1回目の研究授業では、6年分科会として体育科「IZUMO 運動フェスタを成功させよう」の学習を平島 雄一教諭、専科分科会として第4学年音楽科「打楽器の音楽をつくろう」の学習を井筒 さとみ教諭が行いました。

高学年の目指す児童像

- ものづくりに携わる人々の工夫、努力、喜び、苦労を知り、ものづくりを楽しむことができる子
- 身の回りの環境や人々の困り感に気付き、自分たちには何ができるか考えることができる子
- 学習したことを活用して、イメージしたことを試行錯誤しながら表現できる子

6年 体育科「IZUMO 運動フェスタを成功させよう」



この単元では、学年全体で一つのものを作り出す活動を通して、積極的に企画に参画し、協働できる力を付けていきます。また、必要な情報・知識・技能を選択・活用し、友達との関わりの中で、試行錯誤しながら、自分を表現することで、自分自身の生き方や考え方を構築させていきます。「IZUMO運動フェスタ」を通して、自分たちの表現運動でのテーマを決めたり、20分間で6年生全体として、何を伝えていきたいかを考えさせたりすることで、ものづくりの考え方を通して、学びを深めていきます。児童は、コロナ渦で制限される中、自分たちで思考して、体全体を使った表現運動を考えています。また、「IZUMO運動フェスタ」当日を明確なゴールとして位置付け、試行錯誤を通して、成功体験を学年で味わい、大きな自信につなげていきます。外部のプロのダンサー「まえこん」やダンス経験者の教員に、ダンスの構成、ダンスの種類としての基礎的な動きを指導してもらい、児童が見通しをもって、小グループで作り上げていく活動をすすめています。本単元を通して、自分たちで、IZUMO運動フェスタに向けて作り上げるものづくりの楽しさと学年で協力して行う達成感を味わい、出雲小学校の最高学年として、今後につながる力を育てていきます。

「ものづくり教育」と「体育科」との関わり

講師の秋山 亮先生からは、「ものづくり教育」と「体育科の学習」の関係についてのお話をいただきました。「体育科の目標」をしっかりと捉えていることの重要性や体育科の授業における「振り返り時のICT機器の活用」の更なる可能性、児童が主体的に学べる「めあての立て方」など、教員の学びがありました。「本校の6年生全員が学習に真剣に取り組み、活動している姿に感動した。6年生でこれだけ取り組めるのは当たり前ではない。素敵な児童ですね。」とお褒めの言葉もいただきました。



大田区教育委員会 指導課
指導主事 秋山 亮 先生

音楽科の目指す児童像

- 音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みを生かし、音楽をつることができる子
- 音楽制作に携わる人々の工夫、努力、喜び、苦労を知り、それを自分自身の音楽づくりに生かすことができる子
- 友達と協働して音を合わせて表現したり、友達の考えを聞いたり取り入れたりしながら音楽づくりに取り組む子

第4学年 音楽科「打楽器の音楽をつくろう」



第4学年音楽科では、「打楽器の音楽をつくろう」という題材に取り組みました。打楽器の材質による音の特徴を学んだことを踏まえ、打楽器の音楽をつくる活動を行いました。

自分たちが住んでいる大田区内に、国内で唯一「ハンドパン」の製造販売をしている園部 良氏や、日本で数少ないハンドパン奏者である峯モトタカオ氏らを授業協力者として、「ハンドパン」の製作についての話を聞いたり、生演奏を聴いたりして、ハンドパンの音の特徴を生かした音楽づくりに臨みました。

音楽づくりでは、4人のグループになり、音の様子を表した「図形カード」を使った活動に取り組みました。どの子も苦手意識をもつことなく、音のつなげ方を試行錯誤しながら取り組む姿が見られました。

また、自分たちのつくった音楽をハンドパン奏者に演奏してもらうことを通して、普段聴いている音楽も誰かがつくっていて、そのづくり手側の思いに触れる機会にも恵まれました。

今後も、新しい表現方法と出会わせ、児童の音楽観を広げながら、ものづくりの楽しさを伝えていきます。

「未来ものづくり教育」の視点について

講師の清水 一豊先生からは、「ものづくり教育」と「各教科の授業づくり」や、「ものづくりにおける人との関わり」について、お話をいただきました。今回の学習では、「ハンドパン」という楽器、そして、製作者と演奏者が授業協力者という、提案性の高い授業であったこと、コラボする授業の魅力を感じることができたとの講評をいただきました。

一方で、教科目標と合わせたものづくり教育においても、授業協力者を招いて授業づくりをする際は、児童の学びをさらに高めていくために、専門的な立場から協力し、一緒に授業をつくるのが大切であることを教えていただきました。



立正大学 清水 一豊 先生